

井上 弥子

広島県出身。名古屋市在住。職業は化学系エンジニア、心理カウンセラー。2014年より写真教室で学びはじめる。写真は量子力学の観測者効果のようなものだと考えており、高次元にある情報の不確定なものの中から自ら選び認識することで見つけられる光景である。新たに見つけられる光景は今までなかったものではなく、自分の認識が変わり見えるようになったもの。これからも新たな自分と出会うように写真を撮り続ける。

■主な展覧会、写真活動歴

[作品展]

2019 キヤノンフォトクラブ東京DEMI

2018 「人形の家」Aosora cafe

[受賞歴]

第53回 キヤノンフォトコンテスト人物部門入賞

目の前のその先にあるもの

一人暮らしを始めた頃、あらゆる家電がなかったが案外生活できた。しかしテレビを見ないことで急に周囲の人と会話がかみ合わなくなったことを覚えている。私たちの暮らしは、メディアからの影響を受けて言葉が発せられていると強く感じた。

あれから15年。コロナ騒動の渦中にカメラで風景を切り取るうちに気付いた。私は情報と事実の区別ができているだろうか？金網越しの光景を人工物が樹々の枝葉の一部になって、自然の風景を見ている気になっていないだろうか？本当の空の色を見ることができているだろうか？もしかするとファインダー越しにみる世界のひとつとして見ている。

自分を見失わず生きていくのは情報の先にある事実に関心、自分で考えることなのだと言われ、思い知らされる。

井上 弥子